資　料

資料１　看護部長・研修責任者用質問紙

資料２　教育担当者用質問紙

資料３　実地指導者用質問紙

資料４　新人看護職員用質問紙

研修責任者・看護部長

本調査に協力することに同意していただける場合には、以下にチェックをお願いします。

私は本研究の説明を読み、その趣旨を理解し、調査に協力することに同意します。 ☐

―新人看護職員研修の実態と課題に関する調査―

この調査票は、**研修責任者または看護部門の長**の方にお答えいただく質問紙です。

本調査票でいう「新人看護職員研修」とは、免許取得後に初めて就労する看護職員を対象とした研修を念頭としております。

以下の質問について、該当する項目に○印を記入、（ ）内には具体的な記述をお願いいたします。

Q１　貴施設の該当する施設種別の番号に○印を付けた上、病床数等をお答えください。

病院種別	（該当種別に○印をつけてください） 1．特定機能病院　2．地域医療支援病院　3．一般病院　4．その他
許可病床数	（　　）床
稼働病床数	合計（　　）床 内訳 一般病床（　　）床 / 精神病床（　　）床 / 療養病床（　　）床 / 介護病床（　　）床 / 感染症（　　）床 / 結核病床（　　）床 / 特定病床（　　）床
一般病棟入院基本料区分	1．急性期一般入院料１　2．急性期一般入院料２　3．急性期一般入院3 4．急性期一般入院料４　5．急性期一般入院料５　6．急性期一般入院料６ 7．地域一般入院料１　8．地域一般入院料２　9．地域一般入院料３ 10．その他（　　）

Q２　所在地（都道府県）をお答えください。

（　　）都・道・府・県

Q３　クリニカル・ラダー制度またはキャリア開発ラダー制度を導入していますか。

1．はい　2．いいえ

Q４　貴施設では 2021～2025 年度のいずれかの年度において、新人看護職員を採用しましたか。

1．はい　⇒ p.2のQ５へお進みください

2．いいえ

→　新人看護職員を採用していない理由についてお書きください。

新人看護職員の採用がない施設の方に対する質問は以上です。
ありがとうございました。

Q５　看護職員数についてお書きください。（2025 年 4 月 1 日現在）

	看護師	保健師	助産師	准看護師
正規職員数（新採用者・認定看護師等を含む）	名	名	名	名
非常勤職員数（新採用者・認定看護師等を含む）	名	名	名	名
	認定看護師	専門看護師	特定行為研修修了者	実習指導者講習会修了者数
正規職員数	名	名	名	名
非常勤職員数	名	名	名	名
	新人看護師	新人保健師	新人助産師	新人准看護師
正規職員数	名	名	名	名
非常勤職員数	名	名	名	名

Q６　過去５年間の新人看護師の採用状況についてお書きください。　※養成課程種別の大学院については、「大学卒業後、直接大学院に進学して修了した者」の人数を入力してください。

2021 年度				
応募人数	名	採用人数	名	
年代	10代	20代	30代	40代以上
	名	名	名	名
養成課程種別	大学院※　名	大学　名	短期大学　名	
	専修・各種学校　名	高等学校専攻科　名		
実習受入れ校からの就職者数	名			
2022 年度				
応募人数	名	採用人数	名	
年代	10代	20代	30代	40代以上
	名	名	名	名
養成課程種別	大学院※　名	大学　名	短期大学　名	
	専修・各種学校　名	高等学校専攻科　名		
実習受入れ校からの就職者数	名			
2023 年度				
応募人数	名	採用人数	名	
年代	10代	20代	30代	40代以上
	名	名	名	名
養成課程種別	大学院※　名	大学　名	短期大学　名	
	専修・各種学校　名	高等学校専攻科　名		
実習受入れ校からの就職者数	名			

2024年度				
応募人数	名	採用人数		名
年代	10代	20代	30代	40代以上
	名	名	名	名
養成課程種別	大学院※　名	大学　名	短期大学	名
	専修・各種学校　名	高等学校専攻科		名
実習受入れ校からの就職者数	名			
2025年度				
応募人数	名	採用人数		名
年代	10代	20代	30代	40代以上
	名	名	名	名
養成課程種別	大学院※　名	大学　名	短期大学	名
	専修・各種学校　名	高等学校専攻科		名
実習受入れ校からの就職者数	名			

Q7　過去5年間の新人看護師の離職状況についてお書きください。

年度	人数	主な離職理由
2021年度	名	
2022年度	名	
2023年度	名	
2024年度	名	
2025年度 （2025年12月末時点）	名	

Q8　貴施設の新人看護職員研修プログラムについてお答えください。

1）貴施設の新人看護職員研修プログラムはありますか。

1．はい　→ いつからプログラムがありますか（　　）年度から
2．いいえ　→ ない理由を教えてください
（　　）

2）プログラムの評価・見直しはどのくらい行っていますか。

1．毎年行っている　2．2～3年に1回行っている　3．4年以上行っていない

3）新人看護職員研修にe-learningやオンデマンド教材を活用していますか。

1．活用している　2．活用していない

4）新人看護師研修を計画・運用する上で「働き方改革」の影響を受けていますか。

1．影響を受けている　→（具体的に　　）
2．影響を受けていない

5）新人看護職員研修にかかる時間数についてお答えください。

新人看護職員研修の期間：（　　）カ月

研修の形態別内訳
a．自施設内での集合教育（オリエンテーション・ガイダンス等も含む）：（　　）時間
b．自施設以外での研修：（　　）時間
c．ローテーション研修：（　　）カ月
→ローテーションをする部署数：（　　）部署

時間外研修　有　（　　）時間　・　無

6）2年目、3年目の看護師を対象としている研修についてお答えください。

	2年目	3年目
研修時間	時間	時間
研修内容		

Q9　新人看護職員研修事業に係る補助金申請と交付状況についてお書きください。

2024年度	1．申請し交付された	
	2．申請したが辞退した 3．申請したが交付されなかった 4．申請しなかった	→ その理由をお書きください ［　　］

Q10　新人看護職員ガイドライン【改訂版】（平成26年2月）（以下、ガイドライン）を参考にして　いますか。

1）研修体制： 1．参考にしている
2．参考にしていない　→ **参考にしていない理由をお答えください**
①ガイドラインの体制より別の体制の方が良いから
②ガイドラインの体制をとることが難しい
③その他（　　）

2）到達目標： 1．参考にしている
2．参考にしていない　→ **参考にしていない理由をお答えください**
①ガイドラインの到達目標より別の目標の方が良いから
②ガイドラインの到達目標を使うことが難しい
③その他（　　）

Q11　新人看護職員研修のための環境についてお書きください。

1）新人看護職員で使用できる研修費は十分確保されていますか。

1．十分確保されている　　2．ほぼ確保されている　　3．不足している

2）新人看護職員研修で活用できる物品・学習環境は十分に確保されていますか。

a．シミュレーター	1．十分	2．不足	3．ない
b．研修用消耗品（衛生材料）	1．十分	2．不足	3．ない
c．e-learningやオンデマンド教材	1．十分	2．不足	3．ない
d．図書室（院内）	1．十分	2．不足	3．ない
e．図書館（施設周辺）	1．十分	2．不足	3．ない
f．学習室：新人看護職員が自己学習等をすることのできる部屋（自習室など）	1．十分	2．不足	3．ない
g．研修室：新人看護職員への研修等を実施することができる部屋（シミュレーション室、講義室など）	1．十分	2．不足	3．ない

Q12　新人看護職員研修の研修責任者と教育担当者の人材の選考についてお書きください。

	職位を考慮している場合	職位以外の選考理由
a．研修責任者	1．看護部長相当 2．副看護部長相当 3．看護師長相当 4．副看護師長相当 5．その他（　　）	1．経験年数 2．クリニカル・ラダーや認定資格 3．研修等の受講 4．その他（　　）
b．教育担当者	1．看護師長相当 2．副看護師長相当 3．その他（　　）	1．経験年数 2．クリニカル・ラダーや認定資格 3．研修等の受講 4．その他（　　）

Q13　新人看護職員研修において実地指導者とは別に以下の者を導入しているかをお答えください。

呼称	具体的な役割	導入の有無	
a．プリセプター	アセスメント、看護技術、対人関係、看護職としての自己管理等の手本を示す者	1．導入している	2．導入していない
b．メンター	中長期的なキャリア支援、動機付け、よき理解者として人間的な成長を支援する者	1．導入している	2．導入していない
c．チューター（エルダー）	仕事の仕方、学習方法、悩みごと等、広範囲な相談・支援を行う者	1．導入している	2．導入していない
d．その他　（具体的に　　）			

Q14　新人看護職員研修のための他施設との連携についてお書きください。

1）連携の実態についてお答えください。

呼称	連携の有無
a．看護基礎教育機関（看護系大学・養成所等）との連携	1．している 2．していないが、連携したいと考えている 3．していないし、連携したいとは考えていない
b．看護協会（都道府県看護協会、支部も含む）との連携	1．している 2．していないが、連携したいと考えている 3．していないし、連携したいとは考えていない
c．地域の施設（近隣病院・有床診療所等）との連携	1．している 2．していないが、連携したいと考えている 3．していないし、連携したいとは考えていない

2）他施設の新人看護職員研修に新人看護職員を参加させたことがありますか。

1．ある　　2．ない

3）他施設の新人看護職員研修に新人看護職員を派遣するにあたり、困ったことや配慮が必要であったことなどありましたら、具体的にお書きください。

（　　）

4）他施設から新人看護職員研修を受け入れたことがありますか。

1．ある　　2．ない

5）他施設から新人看護職員研修を受け入れるにあたり、困ったことや配慮が必要であったことなどありましたら、具体的にお書きください。

（　　）

6）新人看護職員研修を、他の組織に外部委託するシステムがあれば活用しますか。

1．活用する　　2．活用しない　　3．わからない

Q15　新人看護職員研修に関して、課題と感じていること、困っていること、要望等について、該当する番号にすべて○印をつけてください。（複数回答可）

1. 研修プログラムの企画・運用（目標設定を含む）
2. 研修プログラムの評価・見直し
3. 研修環境の充実
4. 研修時間の確保ができない
5. 研修と実践の統合
6. 研修内容の充実
7. 研修費の確保
8. ガイドラインの共有化
9. 研修体制の構築が難しい
10. 新人看護職員研修事業に係る補助金申請
11. 他施設との連携
12. 配置部署による経験項目の格差
13. 教育担当者や実地指導者の育成
14. 教育担当者の人材不足
15. 実地指導者の人材不足
16. 教育担当者や実地指導者の疲労や負担が大きい
17. 教育担当者や実地指導者のサポートが難しい
18. 新人看護職員の採用がない・少ない
19. 新人看護職員の知識・実践能力の差が大きい
20. 新人看護職員の成長の問題
21. 新人看護職員の心のケアが必要である
22. 人員に余裕がない
23. スタッフの負担
24. 組織文化の醸成
25. 新人看護職員の負担・疲労を考慮することが難しい
26. 教育担当者や実地指導者の役割を果たすのに時間外になってしまう
27. 病院で求める能力と看護基礎教育終了時点で期待される能力との格差が大きい
28 その他　（具体的に　　）

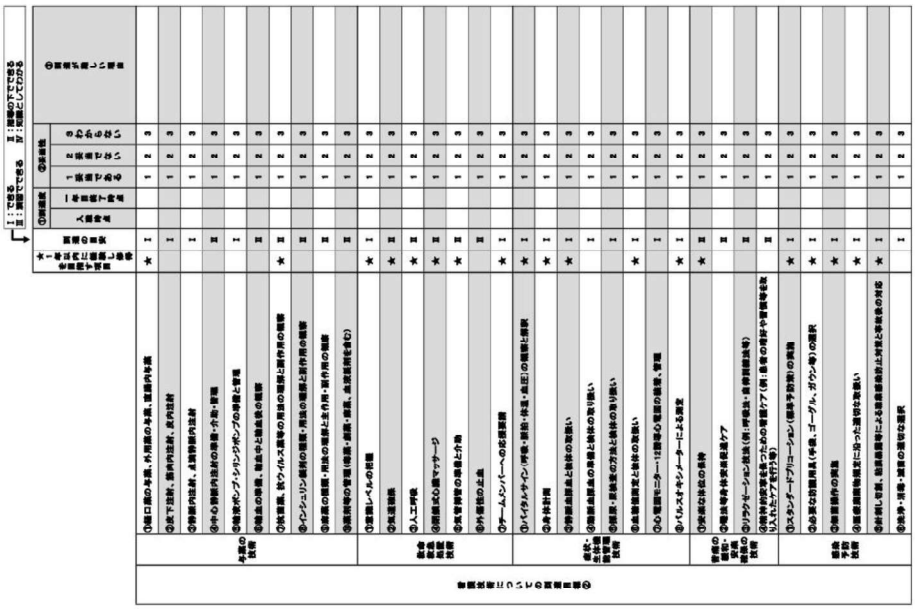
Q16　下記の内容は新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標です。
① 貴施設で入職時点と１年目終了時点で、新人看護職員の８割以上が到達している項目を選択してください。
② 各到達目標の妥当性について、お答え下さい。妥当性については、到達目標として高いか低いかという点、項目として使いやすかどうかという点から判断してお答えください。
③ 到達が難しい理由についてお答えください。

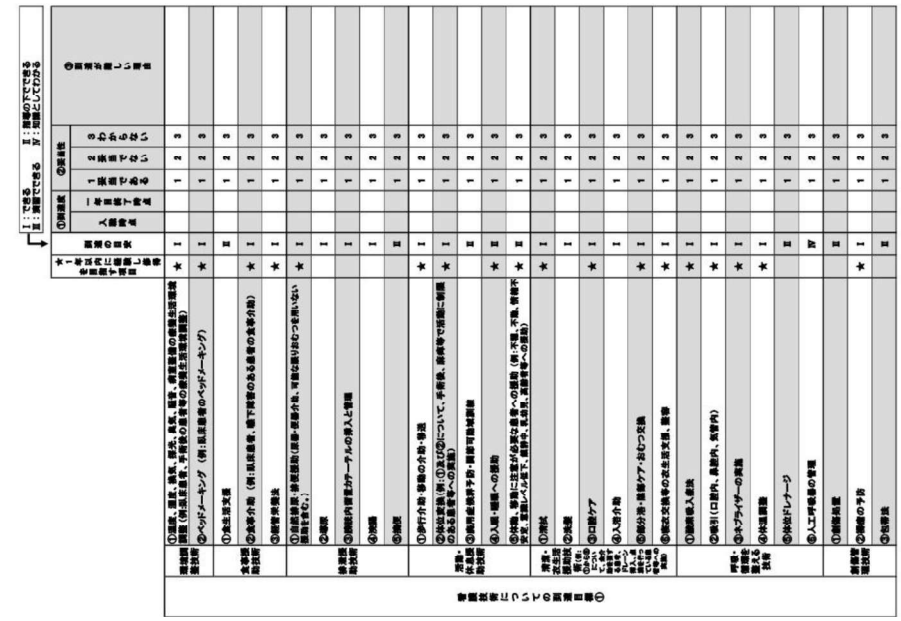
※患者への看護技術の実施においては、高度な又は複雑な看護を必要とする場合は除き、比較的状態の安定した患者の看護を想定しています。なお、重症患者等への特定の看護技術の実施を到達目標とすることが必要な施設、部署においては、想定される患者の状況等を適宜調整することとされています。

Ⅰ：できる　Ⅱ：指導の下でできる
Ⅲ：演習でできる　Ⅳ：知識としてわかる

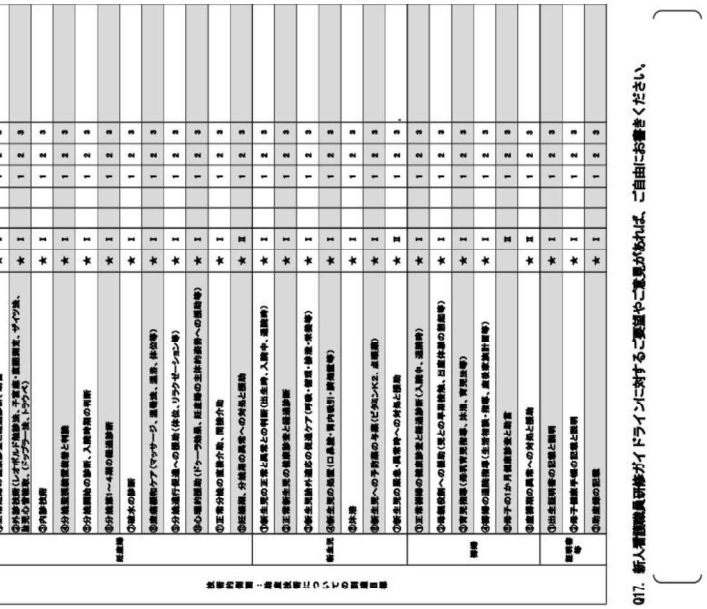
			キーポイントに関する学習内容	到達の目安	①到達度 入職時点	①到達度 一年目終了時点	②妥当性 1 妥当である	②妥当性 2 妥当でない	②妥当性 3 わからない	③到達が難しい理由
看護職員としての基本的姿勢と倫理についての到達目標	看護職員としての自覚と責任ある行動	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人格を擁護する	★	Ⅰ			1	2	3	
		②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	★	Ⅰ			1	2	3	
		③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する	★	Ⅰ			1	2	3	
	患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	★	Ⅰ			1	2	3	
		②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★	Ⅰ			1	2	3	
		③患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る	★	Ⅰ			1	2	3	
		④家族の全向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する	★	Ⅱ			1	2	3	
		⑤や秘密を厳守し、プライバシーに配慮する	★	Ⅰ			1	2	3	
		⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する	★	Ⅰ			1	2	3	
	組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する	★	Ⅰ			1	2	3	
		②病院及び看護部の組織と機能について理解する	★	Ⅱ			1	2	3	
		③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	★	Ⅱ			1	2	3	
		④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	★	Ⅰ			1	2	3	
	生涯にわたる主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける	★	Ⅰ			1	2	3	
		②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	★	Ⅱ			1	2	3	
		③学習の成果を自らの看護実践に活用する	★	Ⅱ			1	2	3	

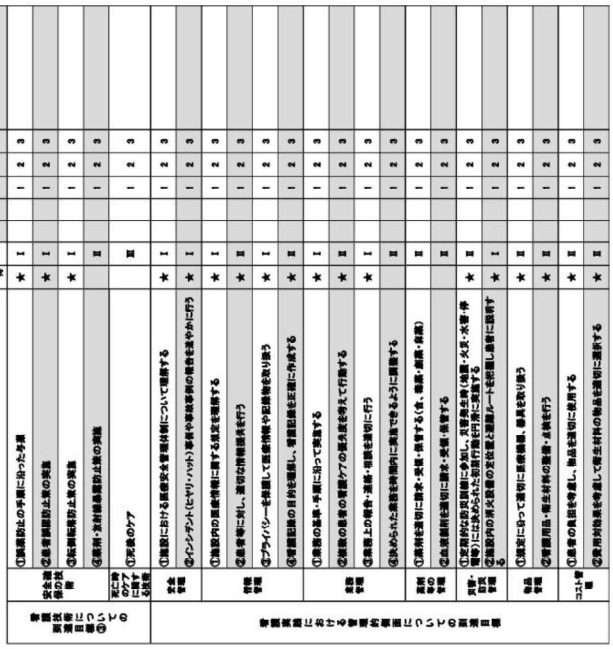
資料１　看護部長・研修責任者用質問紙（続き）





資料１　看護部長・研修責任者用質問紙（続き）





教育担当者

本調査に協力することに同意していただける場合には、以下にチェックをお願いします。

私は本研究の説明を読み、その趣旨を理解し、調査に協力することに同意します。 □

―新人看護職員研修の実態と課題に関する調査―

この調査票は、部署において新人看護職員研修の企画・運営を中心になって行い、また実地指導者（部署において新人看護職員に対して直接的な指導を行う方）への助言及び指導等を行う立場の**教育担当者**様にお答えいただく質問紙です。

本調査票でいう「新人看護職員研修」とは、免許取得後に初めて就労する看護職員を対象とした研修を念頭としております。

以下の質問について、該当する項目に○印を記入、（ ）内には具体的な記述をお願いいたします。

Q１　貴施設の所在地（都道府県）をお答えください。

（　　）都・道・府・県

Q２　貴施設に該当する許可病床数に○印をつけてください。

1．199床以下　　2．200～399床　　3．400床以上

Q３　2025年4月1日時点のあなたの所属する部署の診療科について、最もよく表わしているのは下記のどれですか。（1つだけ選択）

1．一般内科・外科　　2．クリティカル・ケア（ICU、CCUなど）　　3．救急部門
4．小児科　　5．周産期　　6．精神、神経科
7．療養型　　8．リハビリテーション　　9．緩和ケア
10．その他（具体的に　　）

Q４　2025年4月1日時点のあなたの所属する部署の看護方式について、該当するものすべてに○印をつけてください。

1．チームナーシング　　2．固定チームナーシング
3．プライマリーナーシング　　4．パートナーシップ・ナーシング
5．その他（具体的に　　）

Q５　あなたが持っている医療福祉系の資格について、該当するものすべてに○印をつけてください。

1．看護師　　2．保健師　　3．助産師
4．その他（具体的に　　）

Q６　2025年4月1日時点のあなたの経験年数等をお答えください。

看護職としての経験年数	現施設での勤務経験年数	うち現在の部署での勤務経験年数	新人看護職員研修「教育担当者」としての従事年数
年　ヶ月	年　ヶ月	年　ヶ月	年　ヶ月

Q７　新人看護職員を直接指導する役割（プリセプター等）の経験の有無をお答えください。

1．なし　　2．あり（具体的な役割：　　）

Q８　あなたの職位についてお答えください

1．看護単位の長　　2．主任・副看護師長　　3．看護師（院内の教育委員）
4．看護師（病棟の教育担当）　　5．看護部門の長
6．その他（　　）

Q９　あなたの部署に自分を含めて教育担当者は何人いますか。

（　　）人

Q10　教育に関する研修について、受講したことのある研修すべてに○印をつけてください。

1．教育担当者研修（施設内・外）　　2．実習指導者講習会　　3．教員養成講習会
4．大学・大学院において教育に関する科目

Q11　新人看護職員の教育担当者に関する研修の受講状況についてお聞きします。
1）新人看護職員の教育担当者に関する研修を受講したことがありますか。

1．ある　　2．ない　⇒　5）にお進みください

2）1）で「ある」と答えた方にお聞きします。その研修に参加した際は、勤務扱いでしたか。

1．勤務扱いである　　2．勤務扱いでない　→勤務時間外（　　）時間

3）1）で「ある」と答えた方にお聞きします。参加費の自己負担はありましたか？

1．なし　　2．一部負担あり　　3．全額負担あり

4）1）で「ある」と答えた方にお聞きします。あなたが参加した教育担当者研修の内容について、該当するものに○印をつけ、追加の内容がありましたら、具体的にお書きください。

1．新人看護職員を取り巻く現状の理解　　2．教育に関する基本的な考え方
3．専門職業人としての生涯教育の考え方　　4．指導者の役割（新人看護職員の理解）
5．教育ニーズの把握　　6．教育目標の設定
7．教育計画の作成　　8．教育計画の実施
9．教育計画の評価とフィードバック　　10．指導者に求められる要件
11．その他（具体的に　　）

5）e-learningやオンデマンド教材を使用した研修を受講したことはありますか？

1．ある　　2．ない

Q12　新人看護職員研修ガイドライン［改訂版］（平成26年2月）（以下、ガイドライン）の到達目標の各項目ごとに各新人看護職の到達度を確認していますか。

1．確認している　　2．確認していない

Q13　Q12で「確認している」と答えた方にお聞きします。新人看護職員の到達度の評価者について、該当する番号に○印をつけてください。

1．その日の指導者　　2．決められた実地指導者　　3．教育担当者

Q14　新人看護職員研修期間として設定されている期間をお答えください。

部署における新人看護職員研修期間　　採用後から　　（　　）か月間

Q15　新人看護職員の教育・研修における「働き方改革」の影響についてお答えください。

1．影響を受けている　→（具体的に　　）
2．影響を受けていない

Q16　新人看護職員研修について、1）課題と感じていること・困っていること、2）課題や困難と感じていることへの対応（対処）をお聞きします。
1）課題・困難と感じていることについて、該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1．研修時間の確保ができない
2．研修プログラムの企画が難しい
3．研修プログラムの評価が難しい
4．新人看護職員の心のケアが必要である
5．新人看護職員の社会人基礎力の教育が必要である
6．新人看護職員の知識・実践能力の差が大きい
7．新人看護職員同士の交流を促す場が必要である
8．新人看護職員に主体的な学習を促すことが難しい
9．部署で求められる能力と看護基礎教育終了時点で期待される能力との格差が大きい
10．教育担当者の役割を果たすのに時間外になってしまう
11．教育担当者の役割が兼任である
12．部署全体での指導体制を構築することが難しい
13．実地指導者のサポートが難しい
14．実地指導者の資質や能力を育成することが難しい
15．実地指導者の疲労や負担が大きい
16．実地指導者の人材が不足している
17．人員に余裕がない

2）課題や困難と感じていることへの対応（対処）について、具体的にお書きください。
例：自部署の指導方法・指導体制で困ったときに、相談できる人がいる

（　　）

Q17　現場で看護師に求められる能力を踏まえ、新人看護職員の入職時点の「実践能力」と「技術の習得状況」について、どう考えますか。

実践能力	1．引き上げる必要がある	2．引き上げる必要はない	3．どちらともいえない	4．その他（　　）
技術の習得状況	1．引き上げる必要がある	2．引き上げる必要はない	3．どちらともいえない	4．その他（　　）

Q18　あなたの部署で、新人として入職した看護職員が正規職員として夜間勤務を開始する時期は、通常いつ頃ですか。
1）今年の看護職員

入職後（　　）ヵ月頃～

2）5年前の新人看護職員と比べて変化していますか。

1．早くなっている
2．変わらない
3．遅くなっている　⇒（　　）か月程度

Q19　あなたの部署で、新人として入職した看護職員が正規職員として日勤において独り立ちをする時期は、通常いつ頃ですか。
1）今年の看護職員

入職後（　　）ヵ月頃～

2）5年前の新人看護職員と比べて変化していますか。

1．早くなっている
2．変わらない
3．遅くなっている　⇒（　　）か月程度

Q20　新人看護職員が1年目に直面している課題として特に当てはまるものを5つまで選択して○印をつけてください。

課題	5年前の新人看護職員	今年の新人看護職員
1．社会人基礎力の修得	1	1
2．専門的な知識の獲得	2	2
3．看護技術の修得	3	3
4．看護の対象者の状態を把握する力	4	4
5．看護を提供する上で必要となる専門的な判断能力の習得	5	5
6．対象者とのコミュニケーション	6	6
7．同僚とのコミュニケーション	7	7
8．臨機応変に対応する能力の修得	8	8
9．多重業務への対応力の修得	9	9
10．倫理的な課題への対応力の修得	10	10

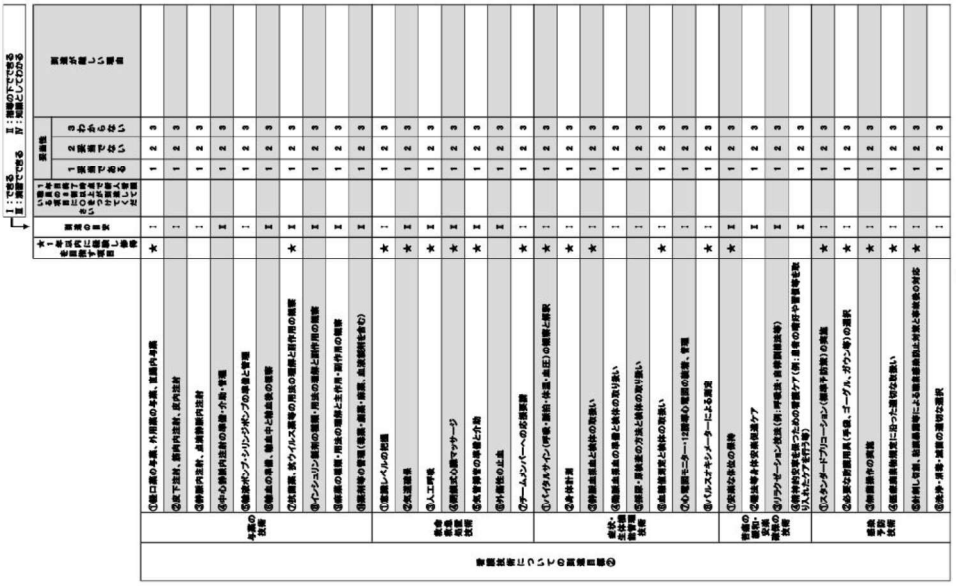
Q21　下記の内容は新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標です。
① 貴施設で1年目終了時点で、新人看護職員の8割以上が到達している項目を選択してください。
② 各到達目標の妥当性について、お答え下さい。妥当性については、到達目標として高いか低いかという点、項目として使いやすかどうかという点から判断してお答えください。
③ 到達が難しい理由についてお答えください。

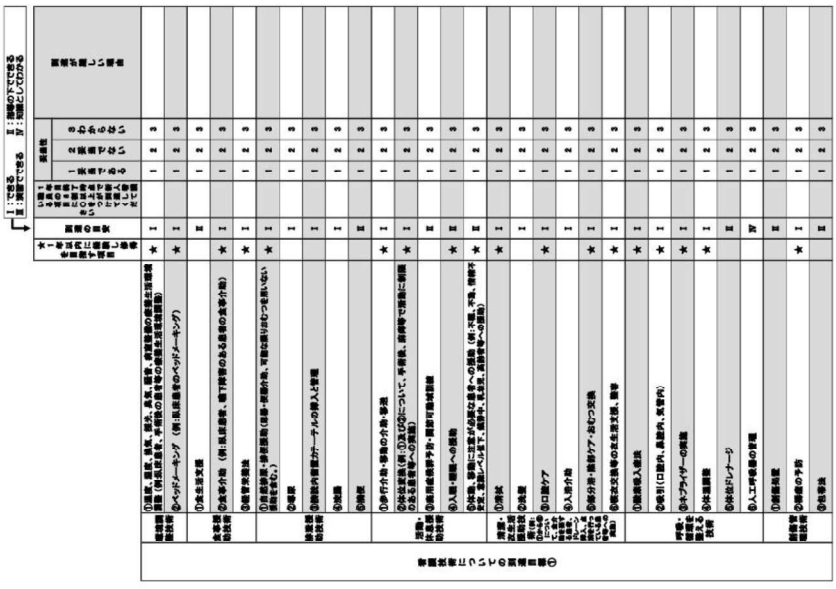
※患者への看護技術の実施においては、高度な又は複雑な看護を必要とする場合は除き、比較的状態の安定した患者の看護を想定しています。なお、重症患者等への特定の看護技術の実施を到達目標とすることが必要な施設、部署においては、想定される患者の状況等を適宜調整することとされています。

Ⅰ：できる　Ⅱ：指導の下でできる
Ⅲ：演習でできる　Ⅳ：知識としてわかる

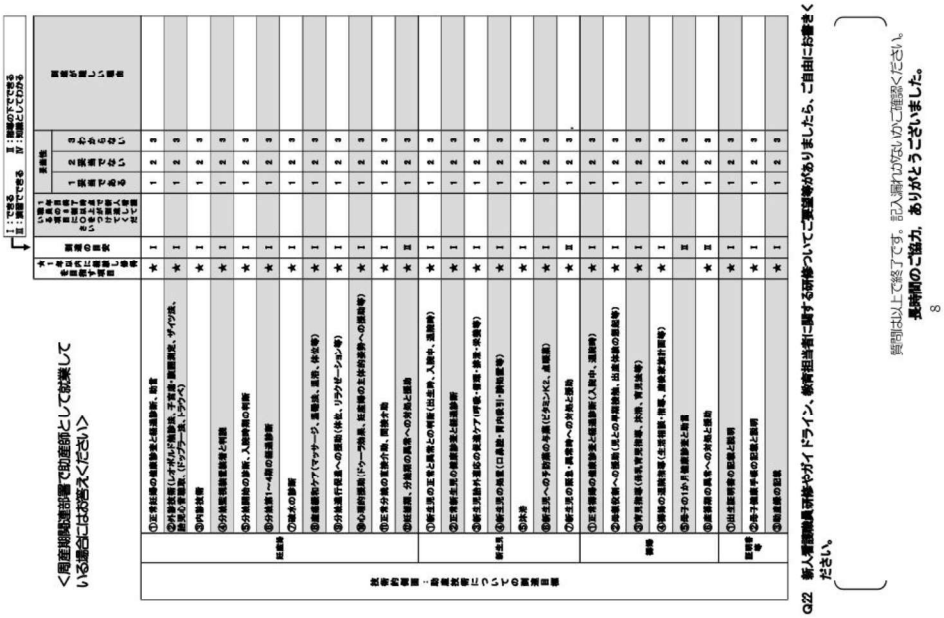
			★＝特に重要と考える項目	到達の目安	1年目終了時点で8割以上が到達している項目に○をつけてください	妥当性 1 妥当である	2 妥当でない	3 わからない	到達が難しい場合
看護職員としての自覚と責任ある行動		①根拠倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する	★	Ⅰ		1	2	3	
		②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	★	Ⅰ		1	2	3	
		③職業人としての自覚を持ち、倫理にふさわしく行動する	★	Ⅰ		1	2	3	
看護職員としての基礎的な基本的姿勢と看護について	患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	★	Ⅰ		1	2	3	
		②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★	Ⅰ		1	2	3	
		③患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る	★	Ⅰ		1	2	3	
		④家族の苦痛を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する	★	Ⅱ		1	2	3	
		⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する	★	Ⅰ		1	2	3	
		⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する	★	Ⅰ		1	2	3	
	組織における役割・他者との関係の理と連携行動	⑦病院及び看護部の理念を理解し行動する	★	Ⅰ		1	2	3	
		⑧病院及び看護部の組織と機能について理解する	★	Ⅱ		1	2	3	
		⑨チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	★	Ⅱ		1	2	3	
		⑩同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	★	Ⅰ		1	2	3	
	生涯にわたる主体的な自己学習の継続	⑪自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける	★	Ⅰ		1	2	3	
		⑫課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	★	Ⅱ		1	2	3	
		⑬学習の成果を自らの看護実践に活用する	★	Ⅱ		1	2	3	

資料２　教育担当者用質問紙（続き）





資料２　教育担当者用質問紙（続き）



実地指導者

本調査に協力することに同意していただける場合には、以下にチェックをお願いします。

私は本研究の説明を読み、その趣旨を理解し、調査に協力することに同意します。 ☐

―新人看護職員研修の実態と課題に関する調査―

この調査票は、部署において新人看護職員に直接指導を行う立場の**実地指導者**様にお答えいただく質問紙です。なおこの質問紙で「実地指導者とは、部署において新人看護職員に対し、直接的な指導を担っておられる立場の方」、「教育担当者とは、各部署で新人看護職員の研修の企画・運営や実地指導者へのサポートを担っている方」のことです。本調査票でいう「新人看護職員研修」とは、免許取得後に初めて就労する看護職員を対象とした研修を念頭としております。

以下の質問について、該当する項目に○印を記入、（ ）内には具体的な記述をお願いいたします。

Q１　貴施設の所在地（都道府県）をお答えください。

（　　）都・道・府・県

Q２　貴施設に該当する許可病床数に○印をつけてください。

1．199床以下　　2．200～399床　　3．400床以上

Q３　2025年4月1日時点のあなたの所属する部署の診療科について、最もよく表わしているのは下記のどれですか。（1つだけ選択）

1．一般内科・外科　　2．クリティカル・ケア（ICU、 CCU など）　　3．救急部門
4．小児科　　5．周産期　　6．精神、神経科
7．療養型　　8．リハビリテーション　　9．緩和ケア
10．その他（具体的に　　）

Q４　2025年4月1日時点のあなたの所属する部署の看護方式について、該当するものすべてに○印をつけてください。

1．チームナーシング　　2．固定チームナーシング
3．プライマリーナーシング　　4．パートナーシップ・ナーシング
5．その他（具体的に　　）

Q５　あなたが持っている医療福祉系の資格について、該当するものすべてに○印をつけてください。

1．看護師　　2．保健師　　3．助産師
4．その他（具体的に　　）

Q６　2025年4月1日時点のあなたの看護職としての経験年数をお答えください。

（　　年　　ヶ月）

Q７　2025年4月1日時点のあなたの現施設での勤務経験年数をお答えください。

（　　年　　ヶ月）

うち現在の部署での勤務経験年数（　　年　　ヶ月）

Q８　2025年4月1日時点のあなたの新人看護職員に対する実地指導者としての従事年数をお答えください。

（　　年　　ヶ月）

Q９　新人看護職員の実地指導者に関する研修の受講状況についてお聞きします。
1）新人看護職員の実地指導者に関する研修を受講したことがありますか。

1．ある　　2．ない ⇒ **5）にお進みください**

2）1）で「ある」と答えた方にお聞きします。その研修に参加した際は、勤務扱いでしたか。

1．勤務扱いである　　2．勤務扱いでない　　→勤務時間外（　　）時間

3）1）で「ある」と答えた方にお聞きします。参加費の自己負担はありましたか？

1．なし　　2．一部負担あり　　3．全額負担あり

4）1）で「ある」と答えた方にお聞きします。あなたが参加した実地指導者研修の内容として該当するものに○印をつけ、追加の内容がありましたら、具体的にお書きください。

知識	
1．新人看護職員を取り巻く現状の理解	2．専門職業人としての生涯教育の考え方
3．新人看護職員研修体制と研修計画	4．新人看護職員研修における実地指導者の役割
5．「新人看護職員研修ガイドライン」の理解	6．新人看護職員が陥りやすい研修上の問題や困難とその解決方法
技術	
1．指導方法や教育的な関わり方	2．新人看護職員の臨床実践能力に合った指導をする技術
3．支援につながる評価技術	4．個別の研修計画を立案する技術
姿勢	
1．相手を尊重した態度について	2．一緒にどうしたら良いか考える姿勢
3．認めていることを伝え、励まし、新人看護職員の自立を支援する姿勢	4．新人看護職員との関わりや指導上で、困難や問題と感じた場合に教育担当者や部署管理者への相談、助言を求める姿勢
その他	
具体的に	

5）e-learningやオンデマンド教材を使用した研修を受講したことはありますか？

1．ある　　2．ない

Q10　新人看護職員を直接指導する看護師について、該当する番号に○印をつけてください

1．指導する看護師は固定して決まっている　　2．その日の勤務者の中で指導者を決める

Q11　新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】（平成26年2月）（以下、ガイドライン）の到達目標の各項目ごとに各新人看護職の到達度を確認していますか。

1．確認している　　2．確認していない

Q12　Q11で「確認している」と答えた方にお聞きします。新人看護職員の到達度の評価者について、該当する番号に○印をつけてください。

1．その日の指導者　　2．決められた実地指導者　　3．教育担当者

Q13　新人看護職員の教育・研修における「働き方改革」の影響についてお答えください。

1．影響を受けている　　→（具体的に　　）
2．影響を受けていない

Q14　自己学習課題を出すことの難しさについてお答えください。

1．難しさを感じている　　→（具体的に　　）
2．難しさを感じていない

Q15　新人看護職員研修について、1）課題と感じていること・困っていること、2）課題や困難と感じていることへの対応（対処）をお聞きします。

1）課題・困難と感じていることについて、該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1．研修時間の確保ができない
2．新人看護職員の指導方法がわからない
3．新人看護職員の心のケアが必要である
4．新人看護職員の社会人基礎力の教育が必要である
5．新人看護職員同士の交流を促す場が必要である
6．新人看護職員に主体的な学習を促すことが難しい
7．新人看護職員の負担・疲労を考慮することが難しい
8．新人看護職員との人間関係が難しい
9．新人看護職員一人ひとりの成長に応じた教育が必要である
10．自分よりも年齢の上の新人看護職員を教えるのが難しい
11．部署で求められる能力と看護基礎教育終了時点で期待される能力との格差が大きい
12．実地指導者の役割を果たすのに時間外になってしまう
13．実地指導者の役割を担うことが負担である
14．他のスタッフからのサポートがない
15．実地指導者の人材が不足している
16．人員に余裕がない

2）課題や困難と感じていることへの対応（対処）について、具体的にお書きください。

例：自部署の指導方法・指導体制で困ったときに、相談できる人がいる

［　　］

Q16　新人看護職員が「1年目に直面している課題」と「5年前と比べて特に大きな課題」について当てはまるものを5つまで選択して○印をつけてください。

課題	1年目に直面している課題	5年前と比べて特に大きな課題
1．社会人基礎力の修得	1	1
2．専門的な知識の獲得	2	2
3．看護技術の修得	3	3
4．看護の対象者の状態を把握する力	4	4
5．看護を提供する上で必要となる専門的な判断能力の修得	5	5
6．対象者とのコミュニケーション	6	6
7．同僚とのコミュニケーション	7	7
8．臨機応変に対応する能力の修得	8	8
9．多重業務への対応力の修得	9	9
10．倫理的な課題への対応力の修得	10	10

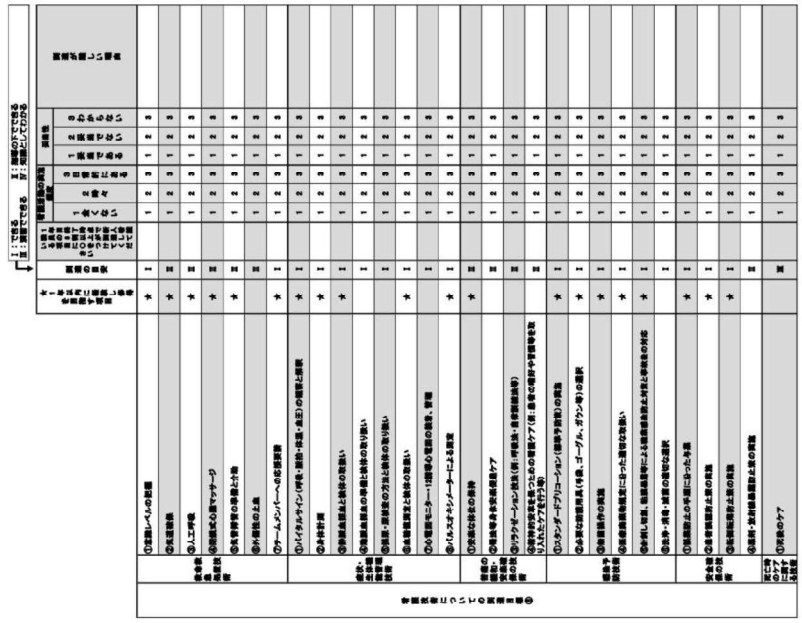
Q17　下記の内容は新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標です。
① 貴施設で、1年目終了時点で新人看護職員の8割以上が到達している項目を選択してください。
② 看護活動の実施頻度について、お答えください。
③ 各到達目標の妥当性について、お答え下さい。妥当性については、到達目標として高いか低いかという点、項目として使いやすかどうかという点から判断してお答えください。
④ 到達が難しい理由についてお答えください。

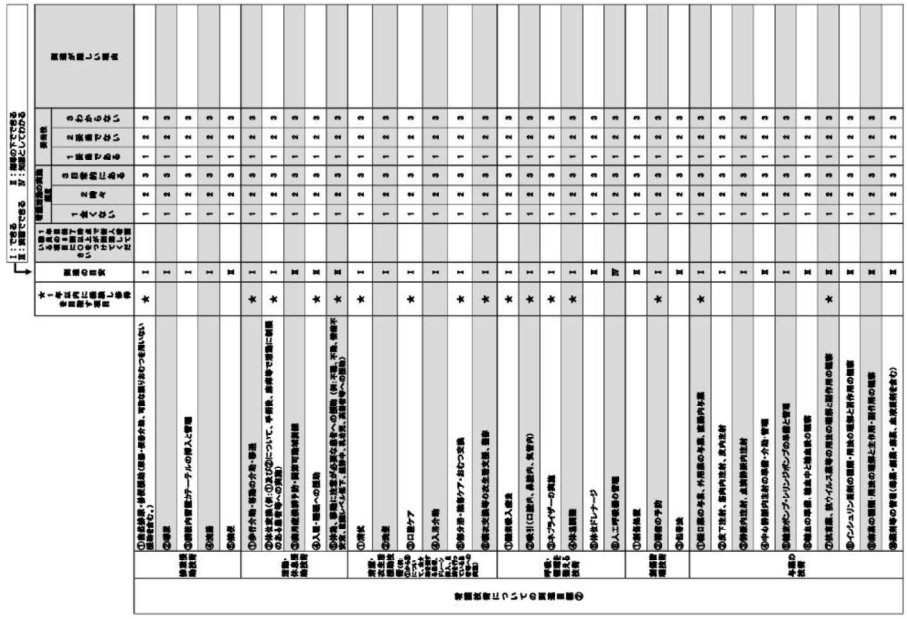
※患者への看護技術の実施においては、高度な又は複雑な看護を必要とする場合は除き、比較的状態の安定した患者の看護を想定しています。なお、重症患者等への特定の看護技術の実施を到達目標とすることが必要な施設、部署においては、想定される患者の状況等を適宜調整することとされています。

Ⅰ：できる　Ⅱ：指導の下でできる
Ⅲ：演習でできる　Ⅳ：知識としてOSPみる

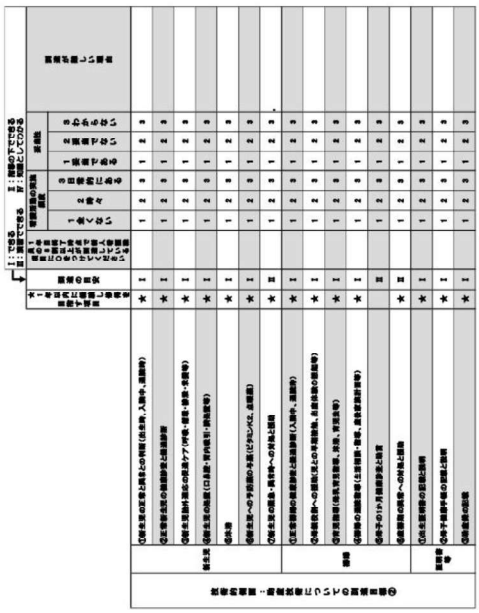
			キーカテゴリに関連した番号	到達の目安	1年目終了時点で新人看護職員の8割以上が到達していると思われる項目に○をつけてください	看護活動の実施頻度 1：全くない	2：時々	3：日常的にある	妥当性 1：高すぎである	2：低すぎでない	3：わからない	到達が難しい理由
看護職員としての基本的な姿勢と態度についての到達目標	管理的実践技術	看護職としての自覚と責任ある行動	①倫理指針・看護指針に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
		患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズをみ体・心理・社会的側面から把握する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			③患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			④家族の全体を把握し、家族にしか見えない役割を判断し支援する	★	Ⅱ		1	2	3	1	2	3	
			⑤守秘義務を順守し、プライバシーに配慮する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			⑥看護は患者中心のサービスであることを理解し、患者・家族に接する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
		組織における役割・心構えの組織と責任ある行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			②病院及び看護部の組織と機能について理解する	★	Ⅱ		1	2	3	1	2	3	
			③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	★	Ⅱ		1	2	3	1	2	3	
			④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
		生涯にわたる主体的な自己の学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	★	Ⅱ		1	2	3	1	2	3	
			③学習の成果を高らの看護実践に活用する	★	Ⅱ		1	2	3	1	2	3	
看護技術についての到達目標	環境調整技術		①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室等の療養生活環境調整（例:急変患者、手術後の患者等の療養生活環境調整）	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			②ベッドメーキング（例:私床患者のベッドメーキング）	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
	食事援助技術		①食生活支援		Ⅱ		1	2	3	1	2	3	
			②食事介助（例:私床患者、嚥下障害のある患者の食事介助）	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	
			③経管栄養法	★	Ⅰ		1	2	3	1	2	3	

資料３　実地指導者用質問紙（続き）





資料３　実地指導者用質問紙（続き）

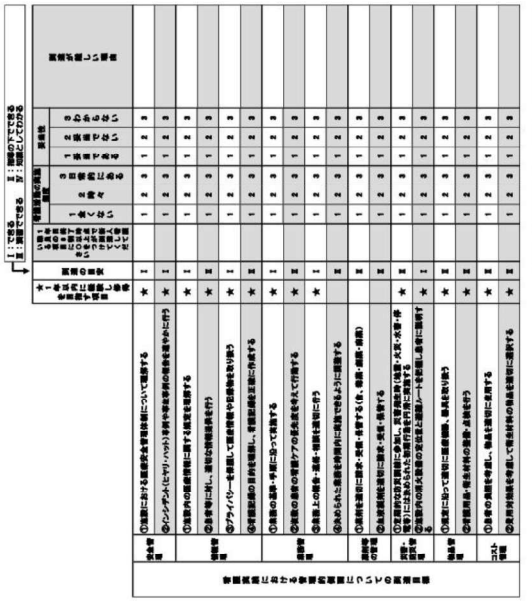


Q18　新人看護職員研修ガイドライン、実地指導者に関する研修についてご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

［　　］

質問は以上で終了です。記入漏れがないか確認ください。

長時間のご協力、ありがとうございました。



<周産期施設群で助産師として就業していない場合には答えください>

新人看護職員

本調査に協力することに同意していただける場合には、以下にチェックをお願いします。

私は本研究の説明を読み、その趣旨を理解し、調査に協力することに同意します。 □

―新人看護職員研修の実態と課題に関する調査―

この調査票は、**新人看護職員**の皆さまにお答えいただく質問紙です。
以下の質問について、該当する項目に○印を記入、（　）内には具体的な記述をお願いいたします。
なおこの質問紙で「実地指導者とは、部署において新人看護職員に対し、直接的な指導を担っておられる立場の方」、「教育担当者とは、各部署で新人看護職員の研修の企画・運営や実地指導者へのサポートを担っている方」のことです。

Q１　あなたの年齢をお答えください（1 つ選択）。

1．17 歳～19 歳　　2．20 歳～24 歳　　3．25 歳～29 歳
4．30 歳～34 歳　　5．35 歳～39 歳　　6．40 歳以上

Q２　あなたの受けた看護基礎教育機関（看護師免許を取得するための教育機関）をお答えください。

1．看護師学校養成所（3年課程（修業年限4年間を含む））　　2．看護師養成所（2年課程）
3．短期大学　　4．大学
5．その他（具体的にお書きください　　）

Q３　現在の施設へ就職を志望した理由についてお答えください。（複数選択可）

1．新人教育体制が整っている　　2．実習施設だった
3．奨学金を受給している　　4．知り合い（先輩等）が働いている
5．交通の便が良い　　6．給与・ボーナスが良い
7．休暇（有給休暇、育児休暇）の取得率が高い　　8．離職率が低い
9．家族や友人に勧められた　　10．教員に勧められた
11．希望する分野（または職場）で働くことができる　　12．看護の専門性が高い
13．その他（具体的にお書きください　　）

Q４　あなたの所属する部署の診療科について、最もよく表わしているのは下記のどれですか。（1つだけ選択）

1．一般内科・外科　　2．クリティカル･ケア（ICU、 CCU など）　　3．救急部門
4．小児科　　5．周産期　　6．精神、神経科
7．療養型　　8．リハビリテーション　　9．緩和ケア
10．その他（具体的に　　）

Q５　あなたの所属する部署の看護方式について、該当するものすべてに○印をつけてください。（複数選択可）

1．チームナーシング　　2．固定チームナーシング
3．プライマリーナーシング　　4．パートナーシップ・ナーシング
5．その他（具体的に　　）

Q６　あなたが持っている医療福祉系の資格について、該当するものすべてに○印をつけてください。

1．看護師　　2．保健師　　3．助産師
4．その他（具体的に　　）

Q７　貴施設の所在地（都道府県）をお答えください。

（　　）都・道・府・県

Q８　貴施設に該当する許可病床数に○印をつけてください。

1．199 床以下　　2．200～399 床　　3．400 床以上

Q９　新人看護職員研修で活用できる物品・学習環境はありますか。

a．図書室（院内）	1．ある	2．なし
b．図書館（施設周辺）	1．ある	2．なし
c．e-learning やオンデマンド教材	1．ある	2．なし
d．シミュレーター	1．ある	2．なし
e．視聴覚教材	1．ある	2．なし
f．図書	1．ある	2．なし
g．学習室：新人看護職員が自己学習等をすることのできる部屋（自習室など）	1．ある	2．なし
h．研修室：新人看護職員への研修等を実施することができる部屋（シミュレーション室、講義室など）	1．ある	2．なし

Q10　研修手帳（研修ファイル）等を活用していますか。

1．活用している　　2．一部活用している　　3．活用していない　　4．研修手帳はない

Q11　知識・技術等の到達目標に対する評価について、該当する番号に○印をつけてください。

1）評価時期

1．定期的に行う ――――→　①1か月　②3か月　③6か月　④12か月　⑤その他（　　）
2．新しい技術を行った時から習熟に合わせて行う
3．特に決まっていない

2）評価方法

1．指導者が評価する　　2．自己評価したものを指導者が確認する　　3．自分で確認するのみ

Q12　あなたの所属する施設での新人看護職員研修についてご要望等がありましたら、お書きください。

［　　］

Q13　新人看護職員研修以外のあなたの学習状況についてお答えください。

1．自己学習を行っている
2．自己学習を行っていない（行う必要がない）
（理由をお書きください　　）

Q14　Q13で「1」を回答した方は、その理由について該当する番号に○印をつけてください。（複数選択可）

1．自ら必要性を感じて行っている　　2．同期が行っている様子を見て自分も行っている
3．研修だけでは十分ではないと思う　　4．職場から自己学習課題が出るので行っている
5．勤務時間内に学習をすすめることが難しい
6．その他（具体的に　　）

Q15　あなたは夜勤を開始していますか。

1．はい　⇒入職後（　　）か月　　2．いいえ

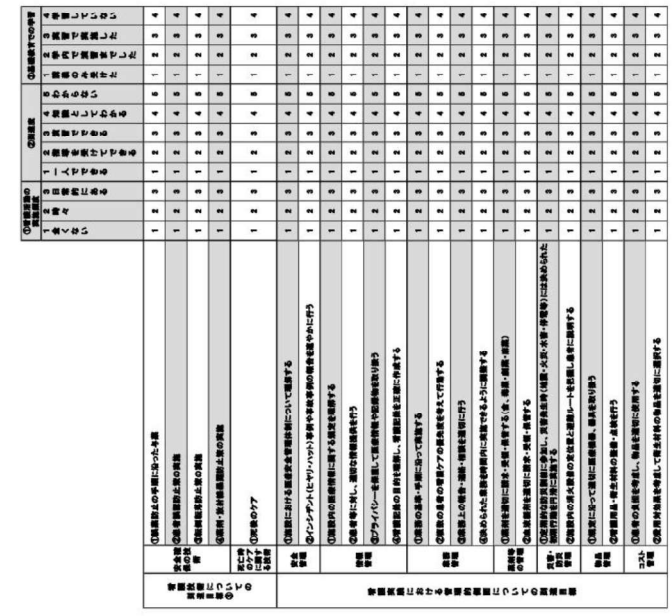
Q16　下記の内容は新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】（平成 26 年 2 月）で示されている到達目標です。①あなたの看護活動における実施頻度と②自らの到達度、③看護基礎教育での学習状況の３つについて、それぞれに当てはまる数字に○をつけてください。

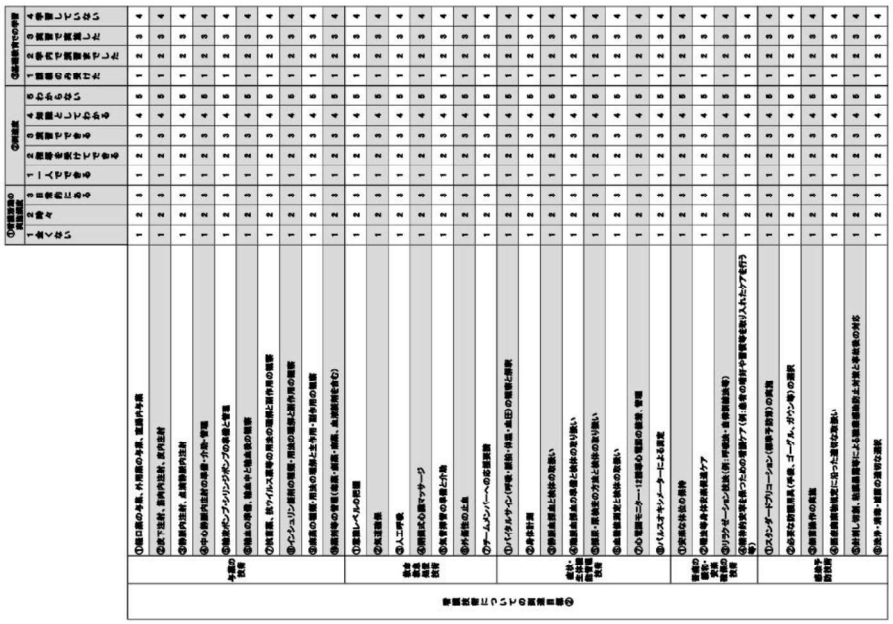
※患者への看護技術の実施においては、高度な又は複雑な看護を必要とする場合は除き、比較的状態の安定した患者の看護を想定しています。なお、重症患者等への特定の看護技術の実施を到達目標とすることが必要な施設、部署においては、想定される患者の状況等を適宜調整することとされています。

			①看護活動の実施頻度			②到達度					③基礎教育での学習			
			1 全くない	2 時々	3 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 実習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 講義のみ受けた	2 学内で演習までした	3 実習で実施した	4 学習していない
看護職員としての基本的姿勢と倫理についての到達目標	看護職員としての自覚と責任ある行動	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	患者の権利と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤守秘義務を順守し、プライバシーに配慮する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑥看護は患者中心のサービスであることを理解し、患者・家族に接する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②病院及び看護部の組織と機能について理解する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	生涯にわたる主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③学習の成果を自らの看護実践に活用する	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4

			①看護活動の実施頻度			②到達度					③基礎教育での学習			
			1 全くない	2 時々	3 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 実習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 講義のみ受けた	2 学内で演習までした	3 実習で実施した	4 学習していない
看護技術について	環境調整技術	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室患者の療養生活環境調整（術後患者、予防法の患者等の療養生活環境調整）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②ベッドメーキング （例：臥床患者のベッドメーキング）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	食事援助技術	①食生活支援	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②食事介助 （例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③経管栄養法	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	排泄援助技術	①自然排尿・排便援助（膀胱・直腸介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む。）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②導尿	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④浣腸	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤摘便	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③廃用症候群予防・異常可動域訓練	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④入眠・睡眠への援助	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤休息、苦痛に注意が必要な患者への援助（例：不眠、不穏、昏睡不安定、意識レベル低下、乳幼児、高齢者等への援助）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	創傷・皮生的損傷処置（例：①から⑤について、ガーゼ交換を含む。ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施）	①消毒	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②洗髪	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③口腔ケア	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④入浴介助	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	呼吸・循環を整える技術	①気管吸入・痰吸引	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②喀痰（口腔内、鼻腔内、気管内）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③ネブライザーの実施	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④体温調整	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤体位ドレナージ	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑥人工呼吸器の管理	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	創傷管理技術	①創傷処置	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②褥瘡の予防	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③包帯法	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4

資料４　新人看護職員用質問紙（続き）





<助産師として就業している場合にはお答えください>

			①習得目標の到達程度			②到達度					③基礎教育での学習			
			1 全くない	2 時々	3 目的的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 実習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 講義のみ受けた	2 学内で演習までした	3 実習で実施した	4 学習していない
技術習得項目：助産師として就業している場合	妊産婦	①正常妊婦の健康診査と保健指導、助言	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②外診技術（レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、ダイツ法、胎児心音聴取、（ドップラー法、トラウベ）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③内診技術	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④分娩監視装置装着と判読	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤分娩開始の診断、入院時期の判断	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑥分娩第1～4期の経過診断	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑦破水の診断	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑧疼痛緩和ケア（マッサージ、温罨法、温浴、体位等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑨分娩進行促進への援助（体位、リラクゼーション等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑩心理的援助（ドゥーラ効果、妊産婦の主体的参画への援助等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑪正常分娩の直接介助、関接介助	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑫妊娠期、分娩期の異常への対処と援助	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	新生児	①新生児の正常と異常との判断（出生時、入院中、退院時）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②正常新生児の健康診査と保健指導	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③新生児蘇生法に準拠した新生児ケア（呼吸・循環・体温・栄養等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④新生児の処置（口鼻腔・胃内吸引・臍処置等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤沐浴	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑥新生児への予防接種の準備（ビタミンK2、点眼薬）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑦新生児の退室・退室時への対処と援助	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	褥婦	①正常褥婦の健康診査と保健指導（入院中、退院時）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②母親役割への援助（児との早期接触、母子体験の意義等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③育児指導（母乳育児指導、乳房、育児技等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		④褥婦の退院指導（生活保健・指導、産後家族計画等）	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑤母子の1か月健康診査と助言	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		⑥産褥期の異常への対処と援助	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	証明書等	①出生証明書の記載と説明	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		②母子健康手帳の意義と説明	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4
		③助産師の記録	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4

Q17　助産師の方のみお答えください。あなたの受けた助産基礎教育機関（助産師免許を取得するための教育機関）をお答えください。

1．助産師養成所　　2．専攻科・別科
3．大学　　4．大学院
5．その他（具体的にお書きください　　）

Q18　入職して一看護職員として働き始めた時点で、ご自身の看護実践能力や技術の修得状況についてどのように感じていましたか。

1．十分な能力や技術があると感じていた
2．ある程度の能力や技術があると感じていた
3．能力や技術が不足していると感じていた
4．能力や技術が大幅に不足していると感じていた

Q19　あなたが直面している課題として特に当てはまるものを選択してください。

1．社会人基礎力の修得　　2．専門的な知識の獲得
3．看護技術の修得　　4．看護の対象者の状態を把握する力
5．看護を提供する上で必要となる専門的な判断能力の修得　　6．対象者とのコミュニケーション
7．同僚とのコミュニケーション　　8．臨機応変に対応する能力の修得
9．多重業務への対応力の修得　　10．倫理的な課題への対応力の修得
11．その他　（具体的にお書きください　　）

Q20　就業上、困難と感じていることどのように対応（対処）しているか具体的にお書きください。

[　　]

質問は以上で終了です。記入漏れがないかご確認ください。
長時間のご協力，ありがとうございました。